

明治四十四年ノ建築ニカ、ル事務所ハ狹隘且ツ腐朽セシ處本年度ニ於テ新築工成リ從來ノ面目ハ一新セラレタリ更ニ昨年ヨリ引續キ改増築中ナリシ看護婦寄宿舎一棟増築、輕症舎三棟改築ニハ全部竣工セリ

一、寄附ヲ受ケタル建物

一、神社 本院患者慰安會事業トシテ患者ノ手ニヨリ建築中ナリシ神社一棟一坪（家根銅板神明造リ）ハ五月ヲ以テ全部落成セシヲ以テ同會ハ之ヲ本院ニ寄附シタリ

一、輕症舎 東京市本郷區駒込東片町宇都野研氏ヨリノ指定寄附ニ依リ院内法財團全生五惠會ニ於テ建築中ナリシ輕症舎一棟二十二坪二合五勺ハ七月ヲ以テ竣工セシニ依リ其ノ一切ト共ニ同月二十五日之ヲ本院ニ引繼カレタリ

一、本年中ニ竣工シタル建物左ノ通り

一、輕症舎	二棟（改）	八八坪三四	一、本館事務所	一棟（新二階建）	一二六坪九
一、同	一棟（新）	四四坪	一、附屬便所	一棟（新）	三坪七五
一、看護婦寄宿舎	一棟（新）	二八坪	一、附屬渡り廊下	三棟	三七坪六

昭和十年

一、皇室ノ御仁慈

一月十八日 皇太后陛下ノ御恩召ニ依リ院長ハ全國各官公立癩療養所長ト共ニ大宮御所ヘ伺候 陛下ニ單獨拜謁仰付ラレ午餐ヲ賜ハル、而シテ其際拜受セル鶏卵ヲ本院ニ於テ孵化シタルニ雌一、雄二羽ノ雛孵リタルヲ以テ院内ニ「光の鶏舎」ヲ築キテ飼育セシニ年末ニ至リ十八羽ノ雛ヲ増加セリ

二月十一日 皇太后陛下ノ重々重々ノ有難キ御沙汰ヲ拜シ院長ハ大宮御所ニ伺候院内施設ノ改善擴張費トシテ御下賜金ヲ拜受シタリ

一、永代神社大鳥居ノ建設

本院永代神社大鳥居（花崗岩）ハ特志家並ニ職員患者ノ寄附金ヲ以テ建設スルコト、ナリ五月十五日東村山水川神社武内社掌ヲ聘シ地鎮祭ヲ執行シ同月二十一日御手洗（花崗岩）ト共ニ工事落成セリ

一、納骨堂除幕式

本院多年ノ宿願タリシ患者ノ遺骨ヲ收藏スヘキ納骨堂ノ建設ハ昨午京都大谷派本願寺、同内侍局、東京築地本願寺、曹洞宗務院、日蓮宗務院、眞言宗豊山派宗務院、同智山派宗務院、淨土宗宗務院、淺草淺草寺等ノ各宗門並ニ特志家ノ援助ヲ受ケ更ニ本院職員、患者ノ寄附金ヲ合セテ財源トシ九年八月工ヲ起シテ以來約一箇年ノ歳月ト二千二百餘圓ノ工費、延人員三千四百四十二人ノ患者ノ作業トヲ以テ漸ク竣工セシニ依リ六月十九日京都東本願寺御連枝信正院殿貌下、同淺草別院沼波輪番、西本願寺東京築地別院岡部輪番、曹洞宗教學部長來馬琢道師外多數高僧臨場、本院囑託和光堅正師司式ノ許ニ莊嚴ナル佛式ヲ以テ除幕式ヲ舉行、微妙ナル奏樂裡ニ院長、主事堂前ニ進ミ除幕ヲ行ヘハ東本願寺法主親下御染筆ノ「俱會一處」ノ金文字燦然トシテ輝キ一同暫時默禱ヲ捧ケリ、之ヨリ信正院殿貌下大導師トシテ法要ヲ嚴修セラレ院長ノ謝辭、主事ノ工事報告ヲ終リ内務省衛生局長、東京府知事、曹洞宗來馬教學部長其他來賓ノ祝辭アリ最後ニ信正院殿貌下代理沼波僧正ノ一場ノ挨拶アリテ此ノ歴史的式典ヲ終了セリ

本年中ニ於ケル竣工建物

一、納骨堂 一棟 四坪 慰安會ニ於テ建設ノ上本院ニ寄附シタリ
一、三井重輕症舎 昨年十月財團三井報恩會ノ依頼ヲ受ケ本院内法財團全生五惠會ニテ建設中ノ左記病舎全部竣工セリ

重症舎 一棟 六〇坪 輕症舎 三棟 (一棟四五坪) 一三五坪
事務分室 一棟 二階建(新) 三二坪二五 書記、調劑員舎宅 二棟 平屋建(新) 三二坪
醫員舎宅 一棟 平屋建(新) 二〇坪 輕症舎 二棟 平屋建(新) 八八坪三四
其他 昭和十年年度豫算ヲ以テ建築セラルヘキ炊事場、圖書室兼集會所、診療室ノ改増築ノ外貯水池ハ目下工事中ナリ

昭和十一年

一、舊帝室博物館建物下附

二月三日 院長、主事宮内省へ出向東京府輕部衛生課長立會ノ上、上野舊帝室博物館事務所外四百五拾餘坪ノ下附書ヲ拜受シ二月十日諸般ノ準備ヲ整ヘ其ノ取壊シニ著手シ三月十五日ヲ以テ全部之カ運搬ヲ完了セリ
一月二十四日 入江皇太后宮太夫閣下ヲ通シ益田孝氏外八氏ヨリ金壹萬貳千圓也ノ移築費指定寄附金ヲ以テ本用材ヲ使用シ本院ニ於テ急施ヲ要ス可キ患者注射所外七棟ノ建築計畫ヲ樹テ三月十九日ヨリ全生會館、患者注射所、患者理髮所ノ建築ニ著手セリ

一、永代神社石燈籠ノ建設

本院永代神社石燈籠壹對ハ職員並ニ患者ノ寄附ヲ以テ建設シ五月二十二日竣工セリ

一、北部保養院火災

十月二十二日 此ノ日北部保養院火災全滅ノ電報ニ接シタルヲ以テ直ニ内務省ニ照會シ緊急職員會ヲ開キ即時救護班ヲ組織シ應急處置ニ要スル醫療材料並ニ藥品等ヲ携帶現地ニ急行セシムル一方職員ヲシテ罹災患者ニ送ルヘキ寢具被服百人分ノ荷造ヲナサシメ即日東京秋葉原驛發ニテ輸送シタリ

一、全生圖書館開館式

昨年末ヨリ患者ノ手ニ依リ建築中ノ全生圖書館ハ四月工事竣工シタルモ尙内部ノ設備其他ニ日時ヲ要セシヲ以テ十一月舊圖書館ヲ此處ニ移轉シ十二月十五日開館式ヲ舉行シ併セテ本院學園兒童學藝品展覽會ヲ開催シタルニ近隣町村小學校ヨリ七百餘點ノ出品アリ頗ル盛會ナリキ來賓トシテ中山田無警察署長、榎本本村長、小池本村小學校校長他近隣小學校長並ニ教職員等多數臨席セラレタリ

一、一時救護所ノ開設

財團三井報恩會ヨリ寄附ノ重輕症舎(初度調辦設備ヲ含ム)ヲ一時救護所ニ充ツルコト、爲シ聯合府縣並ニ警視廳ト協議シ七月之カ開設ヲ見タリ

一、本年中竣工若クハ寄附ヲ受ケタル建物

イ、竣工建物

炊事場	(新) 一棟 六六坪五	看護婦寄宿舎	(増) 一棟 一五坪
治療室	(増) 一棟 二二坪	貯水池	(増) 一箇所 三三〇石
醫局洗濯所	(新) 一棟 一六坪	事務所小使室附屬物置	(新) 一棟 八坪
渡廊下	(同) 一〇坪	全生圖書館	(同) 一棟 四五坪五
職員手洗及消毒所	(同) 一坪八	重症舎附屬浴場(九號)	(増) 一棟 二坪二五
昇降口	(同) 一棟 〇坪九	同渡廊下	一坪

ロ、寄附建物

一、本院内財團全生互惠會ニ於テ建築セル財團三井報恩會ノ建物左記四棟ハ全部本院ニ寄附セラレ八月十二日之カ引繼ヲ

受ケタリ

重症舎
輕症舎

一棟 六〇坪
三棟 一三五坪

初度調辦設備一式

(百人分) 四、〇〇〇圓

一、三井物産株式會社員久山寅一郎氏外三〇三名ノ寄附ヲ以テ本院慰安會ニ於テ建築セル左記建物本院ニ寄附セラレ八月三十一日之カ引繼ヲ受ケタリ

輕症舎

一棟

木造瓦葺平家建

一一坪五

昭和十二年

一、恩賜病棟落成式

皇太后陛下ノ御下賜金ヲ拜受シ御思召ヲ以テ重症病棟一棟ヲ建築スルコト、爲シ、七月二十八日嚴カニ地鎮祭ヲ執行シ爾來御仁慈ニ感激セル患者ノ手ニ依リ工事ヲ進メ竣工シタルヲ以テ十一月十日神官ヲ聘シ落成式ヲ舉行、此ノ日藤間皇太后宮屬、高野内務省豫防課長、多湖東京府學務部長、岡府立清瀬病院院長、武崎府立靜和園長、小池本村化成小學校長、警視廳田無警察署員、私立慰廢園主和田秀豊氏等多數來賓ノ賓臨ヲ恭フシ祝辭、祝電ヲ賜ハリタリ

一、永代神社玉垣建設

本院職員、患者ノ寄附金五百八拾餘圓及豫テ宮内省御下附ノ舊帝室博物館礎石ヲ以テ工事中ノ永代神社玉垣ハ「御惠の日」即チ十一月十日ヲ以テ竣工シタリ

一、全生劇場建設披露

昭和十一年度豫算ヲ以テ建築セル劇場ハ其ノ年度末ニ於テ竣工シタルニ依リ三月二十九日職員有志主催ノ患者慰安演劇

大會ヲ催シ續イテ四月六日東京中村歌扇、阪東市太郎丈合同大一座ノ歌舞伎演劇ヲ開催シテ劇場ノ新築披露ヲナセリ

一、本年中竣工若クハ寄附ヲ受ケタル建物

イ、竣工建物

恩賜病棟

一棟 五七坪五

藥局

一棟 七〇坪五

全生劇場

一棟 一六〇坪

同 附屬地下室

一箇所、五坪

ロ、寄附建物

三井物産株式會社員中丸一平氏、東京府北多摩郡武藏野町武藏野學園長佐藤藤太郎氏ノ指定寄附金ヲ以テ、本院慰安會ニ依リ建築セル左記建物ハ一月二十八日同會ヨリ本院之カ引繼ヲ了シタリ

輕症舎

一棟

木造瓦葺平屋建

一五坪五

一、敷地擴張

患者増員ニ伴ヒ敷地擴張ノ必要ニ迫ラレ聯合府縣ノ承認ヲ經テ三月現在敷地ノ東北方ニ接續セル南秋津中原山林九千四百拾八坪ヲ買収シタリ

昭和十三年

一、恩賜楓ノ園記念碑竣工

皇太后陛下御下賜ノ楓苗木丈餘ニ成育シタルヲ以テ院内閑靜ノ地ニ移植「恩賜楓の園」ヲ造營シ此處ニ記念碑ヲ建設中ノ處一月十二日竣工セリ

一、大宮御所伺候

十一月二十八日御召ニ依リ院長大宮御所ニ伺候

皇太后陛下ニ拜謁仰付ラレ院内状況ヲ具ニ言上院内諸施設諸行事撮影ノ寫眞帖ヲ奉獻セリ而シテ翌二十九日院長ハ職員並ニ患者ヲ召集シ禮拜堂ニ於テ大宮御所ニ伺候セル御模様ヲ述ヘ謹ミテ 陛下ノ御仁慈ノ程ヲ傳達セリ

一、光明園委託患者歸園

昭和九年九月二十一日風水ノ襲來ヲ受ケ壞滅ノ悲運ニ遭ヒタル第三區府縣立療養所外島保養院ハ其ノ位置ヲ岡山縣長島ニ定メ再建工事中ノ處此程竣工シ光明園ト命名シ全國各療養所ノ委託患者ヲ歸園セシメツ、アリシカ本院ノ委託患者五十一名(最初委託七〇名)ハ七月五日光明園醫員吉田重春引率ノ下ニ歸園セリ

一、請願巡查設置廢止

大正二年四月ヨリ設置セル請願巡查派出所ハ今事變ニ際シ多數警察官ノ應召アリ警視廳ノ都合ヲ以テ十月三十一日限り一時之ヲ廢止セラル

一、敷地擴張

患者増員ニ伴ヒ敷地擴張ノ必要ニ迫ラレ聯合府縣ノ承認ヲ得テ現在敷地西北方ニ隣接セル南秋津上原山林一萬七坪ヲ買收シタリ

昭和十四年

一、創立三十周年記念式

十一月十日「御恵の日」ヲトシ本院創立三十周年記念式ヲ舉行東京府知事代理草間衛生課長、厚生省床次優生課長、千葉縣知事代理横技師、厚生省石橋技師、同多田屬、東京府瀧口屬、同小田屬、同小島營繕技師、同清水技師、警視總監

代理白石豫防係長、長島愛生園山田書記、栗生藥泉園玉村醫官、府立清瀬病院岡院長、三井報恩會理事長代理横田主事、日本MTL理事長代理小林理事、ベテレヘムの園フロッジャック園主、眞宗和光布教師、眞言宗中山布教師、好善社藤原布教師、田無警察署高橋署長、所澤警察署署長代理神山警部補、府立農事試驗場長代理松岡技手、松澤病院廣田書記、石渡こと(元全生病院看護婦長)、東村山、久留米、片山、松井各村長、東村山助役、化成小學校長、東村山警防團長、同副團長、東村山郵便局長、東村山驛長、其他村會議員、新聞記者等多數列席セラル

次イテ永年勤続職員看護長後澤長四郎外三十名ノ表彰、並ニ善行患者平松秀男以下五十名ノ表彰アリ、午餐ノ後娛樂場ニ於テ學園兒童學藝品ノ展覽、患者演劇、音樂、舞踊等ノ餘興アリ盛會裡ニ終了シタリ

一、本年中ニ竣工若クハ引繼ヲ受ケタル建物左ノ如シ

(イ) 竣工セシ建物

一、醫員舍宅	木造平家建日本瓦葺	一棟 二〇坪
一、看護人合宿舍	木造二階建ヤマトスレート葺	一棟 八四坪

(ロ) 引繼ヲ受ケタル建物

一、恩賜重症病棟	木造平家建スレート葺	一棟 五七坪五
一、女醫寮	木造平家建亞鉛板葺	一棟 一〇坪一
一、全生會館	木造洋館建瓦葺	一棟 五〇坪五
一、輕症舍	木造平家建スレート葺	一棟 四五坪
一、注射場	同 右	一棟 二八坪
一、理髮場	同 右	一棟 二五坪

- 一、光の鶏舎 木造平家建瓦葺 一棟 七坪五
- 一、園藝部詰所 木造平家建瓦葺板葺 一棟 一〇坪二五
- 一、禮拜堂附屬物置 同 右瓦葺 一棟 一五坪
- 一、漬物倉庫並野菜置場 木造平家建瓦葺並瓦鉛板葺 一棟 四六坪五
- 備考 恩賜病棟ハ 皇太后陛下御下賜金ヲ以テ建築、女醫寮ハ日本女醫會ノ寄附金ヲ以テ建築、全生會館以下八棟ハ宮内省ヨリ御下附ノ上野舊帝室博物館事務所ヲ移築シタルモノナリ

昭和十五年

一、御仁慈

- 五月十一日院長御召ニ依リ大宮御所ニ伺候
- 皇太后陛下ヨリ公孫樹苗木壹鉢ヲ拜受同十四日恩召ヲ職員、患者ニ傳達苗木ヲ御歌碑庭前ニ謹植セリ
- 十一月十二日院長御召ニ依リ大宮御所ニ伺候
- 皇太后陛下ヨリ御下賜金五千圓ヲ拜受セリ
- 一、紀元二千六百年記念事業ノ一トシテ恩賜楓の園ヲ中心トシタル一大記念公園ノ建設ヲ計畫八月一日之カ地鎮祭ヲ執行同二日ヨリ職員、患者合同奉仕作業ヲ續行第一期工事ヲ終了セリ
 - 一、竣工或ハ改増築シタル建物
 - イ、竣工セシ建物
 - 一、院長舍宅 木造瓦葺平家建 一棟 四八坪

- 一、主事舍宅 同 一棟 三三坪
- 一、醫局長舍宅 同 一棟 三三坪
- ロ、改増築セシ建物
- 一、醫員舍宅(改築) 木造瓦葺平家建 一棟 二五坪二五
- 一、外來者面會所(同) 木造洋館建 一棟 六坪 齋藤長八郎氏寄贈
- 一、禮拜堂玄關(増築) 木造瓦葺平家建 一棟 四坪五 野村長一氏寄贈

收容定員増員狀況

年 度 別	收容定員	年 度 別	收容定員
明治四二年度	三〇〇人	昭和三年度	九〇〇人
大正元年度	三五〇人	昭和六年度	一、〇〇〇人
大正四年度	四〇〇人	昭和一〇年度	一、一〇〇人
大正七年度	五〇〇人	昭和一二年度	一、二〇〇人
大正一一年度	六〇〇人	現 在	同
大正一三年度	七五〇人		

職員異動表

任命年月日	摘 要	退職年月日	職 名	氏 名
明治四二年四月一日		明治四三年三月二日	院長事務取扱	大野 徳太郎

同 四年一〇月一五日 同 大正七年八月二〇日 同 河本久米太郎
同 一〇月三〇日 同 九月二五日 醫 員 森岡雄太郎
同 五年九月八日 大正一三年一二月五日死亡 書 記 市川章之助
同 九月八日 同 一四年一月三一日 同 遠藤作次
同 七年九月三日 大正九年四月一九日轉職 醫 員 服部鐵太郎
同 九年四月一九日 同 九年八月二日 療養所醫員 石川又藏
同 四月一九日 昭和六年五月五日轉職 同 林芳信
同 四月一九日 同 六月二九日 同 服部鐵太郎
同 五月四日 同 一二年四月三〇日 書 記 內藤直樹
同 一〇年二月一日 同 一二年五月三一日 醫 員 坂主鐵太郎
同 二月一日 同 五月三一日 調 劑 員 三上太一郎
同 八月二〇日 同 一三年一〇月一六日 療養所醫員 川上左右須計
同 八月二四日 大正一四年一月一九日轉職 醫 員 谷澤貫一郎
同 一二年五月一九日 昭和二三年三月五日 療養所醫員 櫻井方策
同 一二年一〇日 外島保健醫院醫員ニ補セラル 昭和一五年三月一六日 調 劑 員 齋藤勝助
同 一二年六月四日 院長不在中 大正一二年一二月三一日 院長事務取扱 土岐銀次郎
同 一三年一月三一日 東京府理事官庶務課長 調 劑 員 本莊平治
同 七月三一日 昭和一二年一二月一〇日 看護婦長 石渡あと

同 九月二二日 看護 長 後澤長四郎
同 一〇月一日 書 記 伊藤藤菊司
同 一二月三〇日 昭和五年一月二四日轉職 醫 員 渡邊源次郎
同 一四年一月一九日 同 一四年六月九日 療養所醫員 谷澤貫一郎
同 四月三三日 同 九月三〇日 醫 員 鎗田榮
同 六月五日 同 一五年五月三一日 同 許海老澤五郎
同 八月二一日 昭和一四年三月七日 書 記 西原ツボミ
同 一〇月三〇日 昭和五年一月二四日轉職 醫 員 記望月隆三
同 一二月三〇日 昭和九年四月二五日 同 大熊卯之吉
同 一五年六月八日 同 七年三月三一日 療養所主事 横田久
同 七月三一日 昭和七年一月二五日轉職 醫 員 五十嵐正
同 一〇月四日 同 三年二月一〇日 療養所醫員 島憲藏
昭和二三年五月二八日 長島愛生園醫官ニ轉セラル 同 六年三月二五日 同 林文雄
同 三年一〇月一六日 昭和一三年二月二五日死亡 書 記 大川賢太郎
同 一四年四月一五日 星塚敬愛園醫官ニ轉セラル 同 一〇年一〇月二六日 療養所醫員 鹽沼英之助
同 六月二二日 星塚敬愛園調劑手ニ轉セラル 同 一〇年一〇月一八日 調 劑 員 大山繁隆
同 八月二二日 同 一五年七月二五日 書 記 上田末吉

同 五年 一月二四日 同 六年 二月五日 療養所醫員 渡邊源次郎
同 一月二四日 同 西原ツボミ
同 六月二五日 長島愛生園醫官ニ轉セラル
同 七年 六月三〇日 同 七年 六月三〇日 醫 員 大西富美子
同 六年 三月一六日 東京府衛生課長
同 五月五日 同 六年 五月五日 院長事務取扱 輕部修伯
同 七年 一月二五日 同 一五年 七月三二日 療養所醫員 五十嵐 芳 信
同 一月二八日 昭和七年九月九日 石川縣へ出向ヲ命セラル
同 四月一四日 同 九年 五月一八日 療養所主事 廣田安次郎
同 一二月一八日 同 七月一〇日 同 員 齋藤 春雄
同 七年 二月一〇日 昭和一三年五月一八日轉職
同 八年 六月一〇日 同 一五年 一〇月二三日 療養所醫員 藤田 敬吉
同 六月一〇日 同 同 阿部 秀直
同 八年 三月二日 同 同 書 記 永井 晃道
同 九年 五月一八日 同 療養所主事 石橋 伊八
同 一〇年 四月一九日 昭和一一年五月五日轉職
同 五月三二日 昭和一六年一〇月六日死亡
同 一二月二五日 昭和一四年九月一六日 同 調 劑 員 小岩 信一
同 一二年 二月二二日 昭和一二二年三月一日死亡 同 書 記 肥田 敏明

同 四月二〇日 同 一三年 二月九日 調 劑 員 宮崎 米雄
同 五月五日 同 療養所醫員 淺野 滋
同 五月六日 同 一一年 五月三〇日 同 醫 員 宮本 正美
同 八月二〇日 同 同 池尻 慎一
同 九月二五日 同 一三年 五月一八日 同 療養所醫員 日戸 脩一
同 一二年 四月三〇日 同 同 書 記 鳥居 善一
同 四月三〇日 同 一五年 四月一八日 同 看護婦長 坂崎 九か
同 一三年 四月二〇日 昭和一五年六月二七日 京都府へ出向ヲ命セラル
同 五月一八日 (醫員ヨリ) 同 療養所醫員 長谷川 久次
同 七月二六日 同 一四年 二月二二日 同 醫 員 八木 英忠
同 二月一五日 同 調 劑 員 山田 元雄
同 一四年 六月三〇日 同 書 記 藤森 稻藏
同 一五年 三月一九日 同 調 劑 員 三上 太一郎
同 六月一五日 同 看護婦長 四谷 たけ
同 八月二五日 同 一六年 二月二八日 同 醫 員 大須賀 宏一
同 八月二五日 同 書 記 國分 正禮

昭和一五年二月二二日
栃木縣へ出向ヲ命セラル

第二 概況

三四

一、敷地 一二四、五五八坪四二三

內

國敷地 一二四、二〇八坪八六〇

患者一時溜所敷地 四九坪五六三

二、建物坪數 一九七棟 六、〇九〇坪一〇〇

內

事務所建 八八棟 三八七二坪五〇

事務所本館(二階建) 一棟 二二六坪九

應接所 一棟 二二坪

醫務室(材料室) 一棟 三〇坪

職員昇降口(玄關、手洗所ヲ含ム) 一棟 九坪

治療室 一棟 七五坪

處方室 一棟 九坪

醫局圖書室 一棟 二四坪

看護人控室並浴場 一棟 五一坪七五

藥局(一部地下室) 一棟 八〇坪五

第一試驗室 一棟 一八坪

第二試驗室 一棟 二四坪

診察室 一棟 四二坪

手術室 一棟 一三坪

鑿安室(解剖室) 一棟 二二坪

一、二號病棟 一棟 一一五坪

三、四號病棟 一棟 一二九坪五

五號病棟 一棟 七〇坪

六號病棟 一棟 四二坪

七號病棟 一棟 三八坪

八號病棟 一棟 四〇坪

九號病棟 一棟 六〇坪

十號病棟 一棟 六〇坪

輕症病棟 六棟 一〇四坪

三井重症病棟 一棟 六〇坪

恩賜重症病棟 一棟 五七坪五

交付所 一棟 五九坪二五

患者作業場及綑帶交換所 一棟 一三五坪

注射場 一棟 二八坪

事務分館(二階建) 一棟 三八坪二五

外來面會所 一棟 一四坪二五

娛樂室 一棟 一六〇坪

輕症病棟 四五棟 一、八五七坪全

第三隔離室 一棟 一八坪

第二隔離室 一棟 三五坪五

第一隔離室 一棟 六〇坪

全生常會事務所 一棟 二〇坪五〇

教育舍 一棟 七〇坪二五

圖書館 一棟 四五坪五

相談所 一棟 六坪

住宅建 二四棟 八一九坪二五

院長舍宅 一棟 四八坪

主事舍宅 一棟 三三坪

醫局長舍宅 一棟 三三坪

醫員舍宅 六棟 一三七坪二五

醫員調劑員舍宅 一棟 六八坪

調劑員舍宅 二棟 三三坪

看護長舍宅 一棟 一六坪五

書記舍宅 三棟 一一四坪

機關手雇員舍宅 一棟 六〇坪

看護人舍宅 二棟 五九坪五

雇員調劑助手舍宅 一棟 三〇坪

三五

看護婦寄宿舍八洲寮	一棟	四二坪五	物置(事務本館)	一棟	八坪
同 瑞穂寮	一棟	三二坪五	門衛所	一棟	一三坪七五
同 扶桑寮	一棟	二八坪	消毒所(外來用)	一棟	七坪
看護人合宿舍(二階建)	一棟	八四坪	浴室及更衣室	一棟	二二坪
工場建	一棟	二四坪	渡廊下(醫局)	六棟	二〇坪
精米精麥場	一棟	二四坪	醫局洗濯所	一棟	一六坪
倉庫建	一三棟	二五四坪二五	渡廊下(病室)	七棟	五二坪五
自動車庫	一棟	一八坪	便所(病室)	二棟	七坪
事務倉庫	三棟	八九坪七五	動物小屋及標本置場	一棟	一二坪
炊事倉庫	四棟	五二坪五	動物飼育舍	一棟	一四坪
漬物倉庫	一棟	四二坪	監禁及謹慎室	一棟	一七坪
寢具倉庫	一棟	一〇坪	監視所	一棟	〇坪五
倉庫	二棟	三六坪	ガスタンク置場	一棟	三坪
神社倉庫	一棟	六坪	患者浴場(藥湯)	一棟	二坪五
雜屋建	七八棟	一一、一二坪一	男子患者浴場	一棟	四一坪二五
便所(事務本館)	二棟	五坪七五	女子患者浴場	一棟	三五坪
渡廊下(事務本館)	五棟	三〇坪二五	消防器具置場	一棟	八坪
便所(相談所)	一棟	一坪六	患者食品配給所	一棟	三五坪

配食器消毒所	一棟	八坪二五	蒸氣消毒及乾燥場(二階建)	一棟	一四四坪
理髮場	一棟	二五坪	汽罐室	一棟	六五坪五
全生會館	一棟	四九坪七五	火夫宿直室	一棟	六坪
神社	一棟	一坪	光の鶏舍	一棟	七坪五
火葬場	一棟	一二坪	物置(汽罐場)	一棟	一二坪
肥料小屋	一棟	四〇坪	電氣ポンプ室	一棟	八坪
納骨堂	一棟	四坪	蒸氣ポンプ室	一棟	六坪
物置(輕症病棟)	九棟	一八坪	電氣室	一棟	七坪五
便所(院内)	五棟	七坪五	物置(木炭)	一棟	一八坪
園藝部詰所	一棟	一一坪二五	炊事場	一棟	七二坪五
禮拜堂	一棟	一三二坪五	患者炊事場	一棟	二〇坪
禮拜堂附屬物置	一棟	一五坪	便所(炊事場)	一棟	一坪
患者洗濯場	一棟	三一坪五	食堂	一棟	二二坪二五
普通乾燥場	一棟	二〇坪	舍宅共同浴場	一棟	一五坪

三、職員 (年末現在)

(イ) 官制ニ依ル職員

園長 林 芳 信 事務官 庶務課長 石 橋 伊 八

醫官	醫務課長	阿部秀直	同	藤森稻藏
醫官	西原ツボミ	同	鳥居善一	
同	義江義雄	同	國分正禮	
同	淺野滋	同	大嶋定重	
同	池尻慎一	調劑手	本莊平治	
同	八木英忠	同	三上太一郎	
醫官補	淺野實	同	日影西雄	
書記	望月隆三	看護長	後澤長四郎	
同	永井晃道	看護婦長	四谷たけ	

(口) 嘱託及雇傭員

嘱託	三	電氣士	一
雇傭員	六	司廚長	一
指導員	一	司廚士	八
調劑助手	二	守衛士	一
看護士	一四	火夫	三
看護婦	一四	看護助手	四
機關士	一	洗濯士	一
運轉手	二	裁縫婦	一

交換手	一	掃除婦	一
小使	六	雑仕夫	三

四、收容患者定員及現在數

定員	一、二〇〇人
年末現在數	一、三〇九人(男) 八八六人(女) 四二三人

五、特ニ本年中ニ於ケル重要事項

二月十一日 宮内省ヨリ社會事業獎勵ノ恩召ヲ以テ金參百圓也下賜東京府ヨリ同趣旨ヲ以テ金壹百圓下付セラル。

二月二十五日 國立移管ニ關シ第一區聯合府縣協議會ヲ東京府廳ニ開催本院ヨリ林院長、石橋主事、望月書記出席セリ。

三月四、五日 全國官公立癩癰癰癰所長會議ヲ厚生省ニ開催本院ヨリ林院長、石橋主事、阿部醫員出席セリ。

三月六日 長島愛生園光田園長一行ヲ同伴來院市川園治氏ノ演藝寄贈セラル。

三月十四日 朝香宮鳩彦王殿下傷痍軍人御慰問ノ恩召ヲ以テ御成り遊ハサル。

主ナル來院者ハ軍人援護會々長奈良武次大將、軍事保護院三島副總裁、濱野醫療課長、若尾理事官、厚生省高野豫防局長、床次優生課長、東京府小菅總務部長、東京府草間衛生課長其他ノ諸氏ナリ。

三月十九日 松丘保養園長中條資俊氏來園視察セラル。

四月二十八日 本院看護婦養成所ニ於ケル第九回看護婦講習生ノ入所式ヲ舉行ス。

五月十日 本院囑託小野布教師案内ニテ貴族院議員井上清純氏來院講演セラル。

五月十二、十三日 本院職員全員ニ對シ例年ノ通健康診斷ヲ施行ス。

五月十六日 定例春季慰靈祭ヲ執行東本願寺輪番代理藤山治定氏、小野囑託布教師外三名臨場開院以來死亡患者一、九三名ニ對スル法要ヲ嚴修シ藤山僧正ノ法話アリ。

五月二十三日 東村山村氷川神社武内社掌ニヨリ永代神社例祭ヲ執行主ナル來賓ハ東村山村長代理助役久野儀三郎、同役場吏員小山宗一、化成國民學校長代理訓導下田佐十、村會議員並氏子惣代武藤喜平、田無警察署長代理田町巡査部長其他諸氏ナリ。

六月九日 日蓮宗々務院教學部長湯川日淳僧正、猊衾存明師、加藤瑞光師外三名富澤鍊性師案内ニテ大施餓鬼法要ヲ執行シ續イテ湯川僧正ノ法話アリ。

六月二十日 弘法大師誕生青葉祭ヲ執行セルニ高野山東京別院ヨリ前田有和僧正、蓮眞猛僧正、外高僧五名東京金剛講員宮本弘鷹氏外七名中山大忍囑託布教師案内ニテ臨場法要ヲ嚴修シ前田僧正ノ法話アリ、同夜眞言宗寄贈ノ映畫會ヲ催シタリ。

六月二十五日 皇太后陛下御誕辰奉祝式ヲ舉行シ引續キ癩癰防協會理事原泰一氏ノ講演アリ。

七月一日 本院ハ國立ニ移管厚生省所管トナリ名稱ヲ國立癩癰療養所多磨全生園ト改稱セラレ同日付ヲ以テ園長、事務官、外醫官五名、判任官十名發令セラル。

七月二日 國立移管式ヲ舉行ス、主ナル來賓ハ大谷皇太后宮太夫、金光厚生大臣、高野豫防局長、床次優生課長、管理知事代理東京府並川經濟部長、東京府草間衛生課長、警視廳加藤醫務課長、神奈川縣北條衛生課長、埼玉縣土田衛生課長、群馬縣松野衛生課長、千葉縣平松衛生課長、栃木縣加藤衛生課長、愛知縣玉木衛生課長、山梨縣渡邊警察部長、

白井神奈川縣會副議長、古見栗生樂泉園長、同霜崎事務官、東北新生園古溝事務官、和田慰慶園長、千葉復生病院長、恩賜財團三井報恩會山口常務理事、恩賜財團濟生會小川庶務部長、岡府立清瀨病院長、武崎府立靜和園長、八田田無警察署長、柴所澤警察署長、嶋田東村山村長其他多數ナリ。

七月七日 園職員、患者全員禮拜堂ニ參集シ支那事變四周年記念式ヲ舉行ス。

七月九日 神奈川縣參事會員三浦寅之助氏外八名來園視察セラル。

七月十五、十六日 全國國立癩癰療養所長會議厚生省ニ開催セラレ園長、石橋庶務課長、阿部醫務課長、望月係長出席ス。

七月十六日 各療養所長大宮御所ニ伺候長クモ 皇太后陛下特別ノ恩召ヲ以テ各國立癩癰療養所ニ 陛下ノ御寫眞及御所内御栽培ノ樺羅樹苗木ヲ御下賜アラセラル、同月十七日林園長恭シク御寫眞ヲ捧持シテ歸園午後二時五十分ヨリ禮拜堂ニ於テ莊嚴裡ニ拜戴式ヲ舉行ス。

七月二十一日 大日本佛教眞理運動本部友松園諦師同婦人部岩橋ふみ女史外十九名來園慰問ノ後友松師ノ講演アリ。

七月二十四日 開院以來死亡患者慰靈大施餓鬼ヲ北多摩郡佛教聯合會主催トナリ執行清瀨村金龍寺住職武田勝一郎外高僧十三名臨場シ盛大ニ執リ行ハル。

七月三十日 園職員ニ對シ腸チブス豫防注射ヲ施行ス。

八月二十二日 厚生省豫防局青柳豫防課長、本名屬來園視察セラル。

八月二十八日 園頭愛樂園鹽沼園長來園視察セラル。

九月六日 癩ニ申請中ノ東村山村電話（東村山一〇五番）開通セリ。

九月二十六日 陸軍少將櫻井忠溫氏來園禮拜堂ニ於テ講演セラル。

十月十五日 畏クモ 皇太后陛下御下賜金ヲ以テ園内ラデオ放聲裝置設備中ノ處完成セラレタルニヨリ之カ落成式ヲ禮

拜堂ニ舉行ス。

十月十六日 恒例ニ依ル秋季慰靈祭ヲ執行シタルニ淺草本願寺輪番代理栗津勸縁僧正外二名、和光、中山兩囑託布教師臨場法要ヲ嚴修シ栗津僧正ノ法話アリ。

十月二十二日 國囑託小野布教師案内ニテ日蓮宗々務院社會部長星野純義僧正外五名臨場シ禮拜堂ニ於テ御會式法要ヲ執行續イテ陸軍大佐國分習也氏ノ講演アリ。

十一月七日 眞宗報恩講執行ニ際シ和光布教師案内ニテ淺草東本願寺ヨリ百々海了僧正外一名來園禮拜堂ニ於テ法會ヲ嚴修シ續イテ夜ハ映畫會ヲ催ス。

十一月十日 國職員、患者全員禮拜堂ニ參集シ「御恵の日」記念式ヲ舉行ス。

十一月二十一日 十八日ヨリ四日間ヲ會期トシ第十四回患者慰安農產物品評會ヲ開催シタルニ戰時下農村ノ勞力、肥料等不足勝ノ際ニモ不拘地元東村山村ヲ始メトシ久留米、小平、松井、清瀬、大和田、片山、所澤、保谷等十數箇町村ヨリ出品一、五二一點ノ多キニ達シ審査長府立立川農事試驗場長代理、各町村農會長並ニ世話人等多數參列褒賞授與式ヲ舉行ス。

十一月二十三日 恒例ニ依ル秋季俳句大運座會ヲ開催ホト、ギス同人柏崎夢香先生並田口秋思堂、久保白茅子、小樽輝晴諸氏職員側ヨリ石橋一甫、奥住漫歩諸氏選句ノ勞ヲ執ラレ初音會同人、芽生會同人二百餘名出席シ盛會裡ニ終了ス。

十二月二日 防火日第二日ニ際シ警防團ニ賜リタル令旨捧讀式ヲ舉行シ八田田無警察署長ノ火防講演アリ參列者ハ田中東村山警防團長、同嶋田副團長、田町東村山派出巡查部長、和田南秋津駐在巡查外一名、警防團員幹部八名其他ニシテ式終了後學園廣場ニ於テ園ノ警防團ハ器具ノ點檢、操練ノ檢閲ヲ受ケタリ。

十二月七日 恒例ニ依ル秋季短歌會ヲ開催森直太郎先生並職員側ヨリ阿部秀直、邑樂慎一諸氏其他武藏野短歌會員八十餘名出席盛會裡ニ終了ス。

十二月九日 十二月八日午前十一時四十分米英ニ對シ宣戰ノ大詔渙發セラル。翌九日職員、患者禮拜堂ニ參集シ午前九時ヨリ嚴肅裡ニ大詔捧讀式ヲ舉行ス。

十二月二十四日 クリスマス祝會ニ際シ東京好善社ヨリ慰慶園主和田牧師、藤原主事其他參列シ盛會裡ニ終了ス。

一、職員異動

二月二十八日	依願免本職	醫院醫	大須賀宏一
七月一日	任國立癩療養所醫官	院長	林芳信
	補國立癩療養所所長	主事	石橋伊八
	任國立癩療養所事務官	員	阿部秀直
	任國立癩療養所醫官	同	西原ツボミ
	同	同	淺野滋
	同	同	池尻慎一
	同	同	八木英忠
	同	同	囑託淺野實
	任國立癩療養所醫官補	書記	望月隆三
	任國立癩療養所書記		

同	同	同	同	同	同	同
永井晃道	藤森稻藏	鳥居善一	國分正禮	本莊平治	三上太一郎	看護長後澤長四郎
同	同	同	調劑員	同	同	看護婦長
任國立癩療養所看護長	命多磨全生園勤務	任國立癩療養所醫官	任國立癩療養所調劑手	同	同	同
八月六日	十月二十七日	十一月二十四日				

輕症病棟	六棟	木造瓦葺平家建	一〇四坪	(瀨豫防協會寄附)
全生常會	一棟	木造スレート葺平家建	二〇坪五〇	(竣工)
事務分館	一棟	木造瓦葺二階建	六坪	(増築)
日赤寮	一棟	木造スレート葺平家建	二五坪	(竣工)

一、豫算

科 目	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十四年度	昭和十五年度	昭和十六年度
不用品賣拂代	50.00 円	50.00 円	50.00 円	50.00 円	50.00 円
患者遺留金	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
各府縣分擔金	291,274.00	333,714.00	336,799.00	334,610.00	333,610.00
瀬豫防協會委託患者費辦償金	7,645.00	8,230.00	8,235.00	9,721.00	10,950.00
職員納付金	747.00	747.00	750.00	745.00	749.00
恩給分擔金	483.00	483.00	483.00	483.00	483.00
光明園委託患者費辦償金	9,367.00	2,301.00	—	—	—
合 計	399,867.00	334,588.00	346,388.00	335,761.00	337,933.00

四五

科	目	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十四年度	昭和十五年度	昭和十六年度
線越	金	二、三九〇・〇〇	一・〇〇	二、三九〇・〇〇	二、三九〇・〇〇	一・〇〇
寄附	金	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
合	計	三、三九〇・〇〇	二・〇〇	三、三九〇・〇〇	三、三九〇・〇〇	二・〇〇
歳入	總計	三、三九七・〇〇	三、四〇〇・〇〇	三、三八八・八八	三、三八八・四四	三、三七五・九〇

歳出經常部

科	目	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十四年度	昭和十五年度	昭和十六年度
俵	給	三、三三〇・〇〇	三、三三〇・〇〇	三、三三〇・〇〇	三、三三〇・〇〇	三、三三〇・〇〇
雜	給	三、三三〇・〇〇	三、三三〇・〇〇	三、三三〇・〇〇	三、三三〇・〇〇	三、三三〇・〇〇
忠	費	一、一〇〇・〇〇	一、一〇〇・〇〇	一、一〇〇・〇〇	一、一〇〇・〇〇	一、一〇〇・〇〇
試	費	八、七〇〇・〇〇	八、七〇〇・〇〇	八、七〇〇・〇〇	八、七〇〇・〇〇	八、七〇〇・〇〇
修	費	三、三三〇・〇〇	三、三三〇・〇〇	三、三三〇・〇〇	三、三三〇・〇〇	三、三三〇・〇〇
雜	費	二、二二〇・〇〇	二、二二〇・〇〇	二、二二〇・〇〇	二、二二〇・〇〇	二、二二〇・〇〇
恩	給	二、二二〇・〇〇	二、二二〇・〇〇	二、二二〇・〇〇	二、二二〇・〇〇	二、二二〇・〇〇

豫備費	1,000.00
合計	三、三三〇・〇〇

歳出臨時部

科	目	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十四年度	昭和十五年度	昭和十六年度
建築費			一、七、三六五・〇〇	二、五、〇九〇・〇〇		
敷地購入費			一、四、〇〇〇・〇〇			
初年度調辦費			三、二二五・〇〇	二、五、〇九〇・〇〇		
合	計		三、二二五・〇〇	二、五、〇九〇・〇〇		
歳出	總計	三、一九七・〇〇	三、四〇〇・〇〇	三、三八八・八八	三、三八八・四四	三、三七五・九〇

二、決算

歳入經常部

科	目	昭和十一年度	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十四年度	昭和十五年度
不用品賣拂代		四、一四・四四	七、四八・八三	二、四八・六六	四、二二・五二	九、四〇・五二

科	目	昭和十一年度	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十四年度	昭和十五年度
患者遺留金		100,931.91	29,245.00	33,714.00	36,791.00	34,610.00
各府縣分擔金		4,766.00	6,135.60	5,777.00	3,919.40	4,811.90
癩癰防協會委託患者費辨償金		10,144.00	8,806.50	2,101.11		
光明園委託患者費辨償金						
職員納付金		4,003.61	5,519.33	5,691.97	5,561.81	5,401.15
恩給分擔金		4,830.00	4,830.00	4,830.00	4,830.00	4,830.00
合計		330,100.20	108,066.00	352,008.00	352,108.17	351,576.55

歳入臨時部

科	目	昭和十一年度	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十四年度	昭和十五年度
繰越金		2,130.07	1,513.66	4,412.00	5,171.88	2,633.00
寄附金						
合計		2,130.07	1,513.66	4,412.00	5,171.88	2,633.00
歳入總計		332,230.27	309,579.66	356,420.00	357,280.05	354,209.55

歳出經常部

科	目	昭和十一年度	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十四年度	昭和十五年度
俸給		30,031.73	30,691.61	30,644.84	28,750.36	27,744.59
雜給		6,646.08	7,566.47	6,940.47	7,750.07	8,211.00
患者給		1,691.91	1,511.94	1,685.53	1,691.31	1,511.31
試驗費		833.36	629.70	476.16	691.43	697.67
修繕費		8,551.26	8,977.97	9,144.95	9,311.06	9,633.11
雜費		29,646.64	33,766.85	33,174.94	33,383.63	33,433.64
恩給		2,130.00	2,130.00	2,130.00	2,130.00	2,130.00
合計		223,107.61	239,483.94	235,002.09	238,671.85	235,166.31

歳出臨時部

科	目	昭和十一年度	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十四年度	昭和十五年度
建築費		25,711.33		16,911.78	23,891.00	
初年度調辦費						

科	目	昭和十一年度	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十四年度	昭和十五年度
敷地、購入費	計	一三、四九・一〇 三八、八七〇・三三		一四、九四六・三 三、九七・九	二五、八〇九・〇〇	
歳出	總計	三三、〇七・六	三九、四六・四	三六、九〇・八	三四、六八・八五	三五、一六・八三

三、患者一人當經費

年次	經常部決算		食費決算		治療費決算		被服費決算		當該年度中收容患者數
	總額	一日當人	總額	一日當人	總額	一日當人	總額	一日當人	
昭和十年度	二六、八七〇・三〇	・六五九	八三、四三〇・九三	・一九七	二五、二六五・四八	・〇六〇	六、七九八・八	・〇二八	(大) 二四、六六
昭和九年度	二四、二〇三・六三	・六二二	七〇、四六八・八	・一七〇	二二、七八・七九	・〇五三	八、〇五七・七	・〇三〇	(大) 二二、六四
昭和八年度	二三、九六五・六	・五七五	六四、八八・四	・一六	三、八六・八	・〇六六	六、三九三・三	・〇二六	△ 四〇、一七
昭和七年度	二三、〇八九・六〇	・五七七	六二、〇六一・四	・二〇	三、九六九・二	・〇七	五、四八六・二	・〇三	三九、五八
昭和六年度	二九、五七・一八	・五七四	五七、六三・九	・二六	三、三三・八九	・〇五八	五、六四・五五	・〇三	三二、九七
昭和十一年度	二八、二〇三・六三	・六二二	七〇、四六八・八	・一七〇	二二、七八・七九	・〇五三	八、〇五七・七	・〇三〇	(大) 二二、六四
昭和十二年度	二六、八七〇・三〇	・六五九	八三、四三〇・九三	・一九七	二五、二六五・四八	・〇六〇	六、七九八・八	・〇二八	(大) 二四、六六

昭和十一年度	二八、二〇三・六三	・六二二	八三、四三〇・九三	・一九七	二五、二六五・四八	・〇六〇	六、七九八・八	・〇二八	(大) 二四、六六
昭和十二年度	二六、八七〇・三〇	・六五九	八三、四三〇・九三	・一九七	二五、二六五・四八	・〇六〇	六、七九八・八	・〇二八	(大) 二四、六六
昭和十三年度	二五、〇四三・〇九	・七〇三	五五、三三・六八	・三三	三〇、九三・一八	・〇九	九、一三・七六	・〇一〇	(大) 四一、一八
昭和十四年度	二八、八六・五五	・七二	九八、三三・二九	・三三	三〇、三三・〇〇	・〇八	九、〇〇・三三	・〇一〇	△ 四三、二七
昭和十五年度	二五、〇四三・〇九	・七〇三	二四、四四・〇四	・二六	二四、七五・二九	・〇五五	一〇、八四・一四	・〇一四	△ 四四、八三

備考
(一) 當該年中收容患者延數欄△印ハ、癩豫防協會委託患者延數、(大)印ハ大阪委託患者延數ナリ
(二) 一人一日當總經費及雜費ハ癩豫防協會委託患者並大阪委託患者延數ヲ合算算出セリ

第四 治療

現今癩ノ治療藥トシテ推奨スベキモノハ大風子油ナリ。本園ニ於テハ厚生省衛生試驗所製ノ大風子油ヲ使用セリ、本油ハ主トシテ「ヒドノカルプスアンテルミンチカ」及ビ「ヒドノカルプス、アルビーナ」ノ種子ヨリ搾取セルモノヲ謂フ。之ヲ攝氏百二十度前後ニ熱シテ消毒滅菌シ、臀筋肉或ハ大腿上膊等ノ皮下ニ一回二・〇—五・〇ccヅツ一週三回注射シ一箇年百回—百二、三十回ニ及ビ數年間連續ス。只嚴寒ノ候ニアリテハ藥液ノ吸收不良ナルヲ以テ二、三週間休止スルコトト

セリ。

五二

大風子油ノ有效ナルコトニ就テハ既ニ一般ノ認知スル處ニシテ、コノ注射ニヨリ斑紋、結節、浸潤ノ吸收消失、潰瘍ノ治癒眉毛頭髮ノ再生等臨床上ノ著明ノ效果ヲ認ムルノミナラズ癩菌ノ皮膚粘膜等ヨリ破壊消滅スルノ狀ヲ顯微鏡下ニ證スルコトヲ得、即チ之等組織標本ヲ鏡檢スルニ初メ無數ノ癩菌ヲ宿シタル癩細胞ハ次第ニ癩菌ヲ失ヒソノ消滅ノ場所ニ脂肪模體ノ顆粒ヲ含有セル一種ノ空泡細胞ニ變ズルヲ認ムルナリ。

然レドモ斯ノ如キ機轉ノ全身各組織ニ一齊ニ起ルヤ否ヤニ就テハ疑問ノ存スル處ニシテ何レカノ部分(神經内或ハ小血管ノ内皮細胞内等)ニ於テ癩菌ハ依然トシテ變化セズ潜伏生存ヲ續ケ一定ノ期間(多クハ六、七年)ヲ經過シ、身體ノ抵抗力ノ減弱アラシカニ大風子油注射ヲ繼續シツ、アルニ關ハラズ、再ビ活潑ナル繁殖ヲナシ病狀ノ増悪ヲ來スコトアルハ屢々認ムル處ナリ。斯ル再發生ノ結節浸潤ニ對シテハ大風子油ノ效力モ初發生ノソレニ比シ著シク劣リ容易ニ病勢ヲ輕快鎮靜セシムルコト能ハザルハ甚ダ遺憾ナリ。近來斯ル場合沃度加大風子油「エチール、エステル」ヲ局所的ニ結節内ヘ○二—○三ツツ數回注射スルコトニヨリテ其ノ結節ハ概ネ吸收スルヲ見タリ、然レドモコノ方法ハ個々ノ結節ニ就テ行ハザルベカラザルノ煩アルヲ缺點トナス。

從來入國者ノ多クハ發病後數年以上ヲ經過シ病症ノ相當進行シタル後ナリシヲ以テ假令該症狀著シク輕快セル場合ニ於テモ輕快退國セシメ得ラル、モノハ極メテ稀有ナリシガ近時ノ入國者中ニハ發病後餘リ時日ヲ經過セズ從ツテ比較的輕症ナルモノアリテ之等ニ對スル所謂早期治療ハ甚ダ有效ニシテ輕快退國セシメ得ラル、モノ漸次多キヲ加ヘ來リシハ喜バシキ傾向ニシテ本年中ニ於ケル輕快退國者ハ二十二名ヲ算ス。

大風子油及ビソノ製劑以外近時試用セラレツ、アル藥品トシテハ諸種ノ金製劑硫黃製劑「アンチモン」製劑白金製劑等アルモ未ダ大風子油以上ノ效果ヲ舉グルノ域ニ達セザルヲ遺憾トス。

次ニ患者ニ對スル治療的處置ノ概況ニ就イテ述ベシニ、本國ニ於テハ患者ヲ收容スルヤ初メノ數日間ヲ防疫の意味ニ於テ收容患者病室ニ居ラシメ、癩ノ各症狀及ビ其ノ他ノ傳染性疾患、合併症等ノ有無ヲ檢診シ然ル後其ノ症狀ニ應ジテ或ハ一般患者ト共同生活ニ入ラシメ或ハ重症患者病室ニ移ス等夫々適當ナル處置ヲ講ズ。

一般入國患者ノ診療ハ醫官及ビ醫官補七名ノ醫師ニヨリテ分擔シ便宜上内科、外科、眼科、耳鼻咽喉科、レントゲン科、物理療法科、齒科口腔科、繃帶交換科等ニ分テリ。

内科ニ於テ多ク見ル病症ハ癩菌ノ破壊吸收スル時ニ發スル癩性結節性紅斑ニシテ同時ニ神經痛、關節痛等ヲ併發スルコト多シ、本症ハ患者間ニ於テ「熱癩」ト唱フルモノニシテソノ經過ハ數週ヨリ永キハ年餘ニ亙リ煩ハシキ發疹、發熱ヲ反覆シ爲ニ身體衰弱シテ結核性疾患ヲ誘發シテ死ノ轉歸ヲトルコトアリ。本症ニ對スル療法トシテハ輕症ナル者ニハ三%クロールカルシウム液ノ靜脈内注射ヲ毎日行フ事ニヨリテ良好ノ結果ヲ來スコトヲ得。近時本症ノ重症ニシテ高熱ノ繼續スルガ如キ者ニ對シ「ネオ・ステバルサン」○・一五—○・三ノ靜脈内注射ヲ行ヒテ屢々好結果ヲ收メツ、アリ。又激烈ナル關節痛ヲ伴フ場合ニハ「銀エクロイド」ノ皮下又ハ靜脈内注射ヲ施シテ相當效果ヲ認メツ、アリ。癩性神經痛モ亦屢々來ル症狀ニシテ患者ノ最大苦痛トスルモノナリ、此ノ療法ハ局所療法、鎮痛劑、鎮靜劑ノ内服或ハ「テトロドキシン」「アンチピリン」等ノ皮下注射「クロールカルシウム」ノ靜脈内注射「ノボカイン」ノ神經幹内注射等ニヨリテ概ネ好結果ヲ得ルナリ、更ニ近時之等ニ赤外線療法ヲ併セテ試ミツ、アリ。「モルヒネ」等ノ麻酔藥ハ一時的ノ鎮痛作用アルモ習慣性トナリ、中毒性ニ陥リ易ク患者自身ノ不幸タルノミナラズ甚シキニ至リテハ療養所内ノ秩序ヲ亂シ一般社會ノ安寧ヲ害スルニ至ルノ惧レアルヲ以テ本國ニ於テハ「モルヒネ」類ノ使用ヲ嚴禁セリ。

其ノ他ノ内科的疾患トシテハ結核性諸疾患ノ外癩性腎臟炎ヲ屢々見ル、本症ハ患者ノ死因中重要ナルモノナリ。外科的治療ノ大ナルモノハ繃帶交換ナリ。癩結節或ハ浸潤ノ崩壊ニヨリテ生ズル癩性潰瘍ノ處置ハ大多數ノ患者ニ就テ

五三

行ハザルベカラズ。斯ル患者ハ日々數百人ニ及ブ。癩性潰瘍足穿孔症ニ對シテハ、リバノール、沃度ホルム、或ハ種々ノ軟膏類ヲ症狀ニ應ジテ使用ス。

又人工太陽燈ノ照射モヤ、見ルベキ效果アリ、手術ヲ要スル患者モ亦多數ニシテ喉頭ノ癩結節又ハ浸潤腫脹ニヨル狹窄ハ窒息死ヲ招ク危險アルヲ以テ氣管切開手術ヲ行ヒテ之ヲ救フ事屢々ナリ、漂流、火傷、足穿孔症等ノ爲ニ手足骨ノ壞疽ヲ來セルモノハ之ヲ除去セザルノミナラズ、時ニハ下腿ノ切斷手術ヲ要スルモノ亦尠カラズ、然ラズンバ全身ノ敗血膿毒症ヲ惹起スルノ惧アレバナリ。又神經ノ浸潤肥厚シテ激烈ナル神經痛ヲ來セル場合ハ神經鞘剝離手術ヲ施シテ良好ナル結果ヲ得ツ、アリ。

眼科的疾患トシアハ癩性角膜炎、外翳膜炎、虹彩毛様體炎、續發性白內障等多ク爲ニ失明ニ陥ル者モ尠カラズ從ツテ是等ニ對スル處置ハ極メテ必要ナリ。就中虹彩切除手術ハ瞳孔閉鎖症及ビ角膜濁濁ノ瞳孔領ヲ覆ヘル場合ニ推獎スベキ手術ナリ。

失明統計

計	女	男	收容患者數				失明者數			
			結節		癩		神經		癩	
計			一、三〇九		二二九		一一		二五〇	
女			四二三		七七		六		八三	
男			八八六		一六二		五		一六七	

備考 失明者ハ兩眼共一米ノ距離ニ於テ指數ヲ辨シ得ザル程度以下ノモノ。

鼻腔咽喉ノ粘膜炎ノ好發部位ナルヲ以テ耳鼻咽喉科的治療モ亦忽ニスルヲ得ザルナリ、鼻翼或ハ鼻腔内ノ癩性潰瘍浸潤ニヨル鼻道ノ崩潰或ハ狹窄、閉鎖又ハ咽喉狹窄等ニヨル呼吸障害、之等諸症ニ續發シ易キ慢性中耳炎等ハ最も多キ病症ナリ、之等ニ對シテハ夫々一般的ノ適當ナル處置ヲ施シツ、アリ。

右ノ如キ診療上重症ニシテ特別ナル加療ヲ要スルモノハ重症者病室ニ入ラシム、重症室ハ十一室約二百床ヲ有シ夫々擔任ノ醫員、看護婦ヲ定メテ一般病院ニ於ケル入院治療ノ如クシ、尙輕症患者ヲ附添ハシメテ服藥衣食其他看護ノ補助ヲナサシメツ、アリ。

第五 患者ノ生活狀態

本園ニ收容セル患者（一、三〇九名十二月末日現在）ハ四十九病舎ニ分住セシム、概ネ一舎ヲ四室トシ之ガ一室ハ十二疊半ニシテ六、七名ノ患者ヲ容ル、少年舎及家族舎ハ一般ト異ナリ八疊乃至十疊ノ室トス。

然シテ此等四十九舎ヲ輕症舎（三十四舎）、不自由舎（十五舎）ニ大別シ、更ニ輕症舎ヲ男子舎（十八舎、女子舎八舎）、少年舎（二舎）、少女舎（一舎）家族舎（六舎）ニ區別ス。

男女輕症舎ハ自治的ノ制度トシ各舎ニ一名ノ舎長（任期一箇年選舉制）ヲ置キ其ノ舎ノ整理、衛生、衣食、作業等ノ世話ヲナサシム。

少年少女舎ハ十八歳未満ヲ收容シ各舎ニ寮父母（患者）ヲ置キ少年少女ト同居生活ヲ爲シ訓育ニ當ラシム。

家族舎ハ戸籍上ノ夫婦ヲ同棲セシム、現在ノ家族三十二組ナリ。

不自由舎ハ盲人及ビ手足不自由ニシテ自用ヲ辨シ能ハザルモノ、又ハ六十歳以上ノ老人等ヲ收容シ、各室ニ一人若クハ

二人ノ輕症ナル患者ヲ附添ハシメ衣食其ノ他ノ世話ヲナサシム。現在收容數三九四名ナリ。
精神病舎ハ別ニ一棟ヲ設ケテ之ヲ收容シ附添人ヲシテ監視介補ニ當ラシム。現在ノ精神病者數十六名ナリ。
而シテ一般輕症患者ハ午前ハ概ネ治療時間トシ午後ハ各種ノ作業ニ従事ス、輕症患者ニシテ重症トナレルモノ又ハ餘病併發ノモノハ別ニ設ケタル重症室ニ收容シ快復後ハ自舎ニ歸舍セシム。

一、衣 食

(イ) 被服寢具 患者一人ニ對シ貸與又ハ給與スル被服寢具ハ左ノ通り定メタルモ戰時下物資需給困難ナル爲メ出來得ル限り長期間修理使用セシム。

品名	品質	數量	貸與ノ別	時期上	期使用	備考
綿入	三河黒綿	一	貸與	十二月	三年	
半給	同(綿入)	一	同	十一月	三年	
給衣	三河白綿	二	同	六月	二年	二年毎ニ一枚貸與
襦袢	綿ネル	一	同	十月	二年	
浴(夏)	晒木綿	一	給與	六月	二年	死亡、退院ノ際ハ返納セシム
肌着(冬)	男メリヤス、女袖半襦袢	一	同	十二月	二年	

品名	品質	數量	貸與ノ別	時期上	期使用	備考
夏(男)	冬メリヤス	二	同	十二月	一年	
冬(男)	冬メリヤス	一	同	十二月	二年	
夏(女)	冬メリヤス	二	同	十二月	一年	
冬(女)	冬メリヤス	一	同	十二月	二年	
腰帶	黒新モス兵兒帶	一	同	七月	二年	女兒ニハ兵兒帶
同	更紗	一	同	七月	二年	附添人ニハ外ニ一足給與(一月)
足	コール天石底	二	同	十二月	一年	
手拭	晒木綿	三	同	十二月	一年	
掛布	表三河木綿	二	貸與	隨時		内一枚ハ十二月一日ヨリ三月三十一日マデノ間貸與
敷布	同	一	同	同		
大布	綾織木綿	一	同	同		
小包	同	一	同	同		
枕	三河生木綿	一	同	同		
枕	同	一	同	同		

備考

- (一) 右ノ外重症患者ニハ病衣、附添患者ニハ看護衣、醫局雜役ニ胸掛、理髮作業患者ニ作業衣及胸掛、髪結患者ニエプロン、藥運搬及火種配給患者ニ雨合羽、洗濯患者ニゴム長靴ヲ各舎ニハ蚊帳ヲ貸與ス。
- (二) 新調被服ハ全患者ニ一齊ニ貸與シ從來使用中ノモノヲ返納セシム。
- (三) 貸與期間中ト雖モ甚シク破損シタルモノハ隨時新品若クハ修理品ト交換セシム。